

フレックススクールの生徒のコミュニケーションの機会を増やす取組

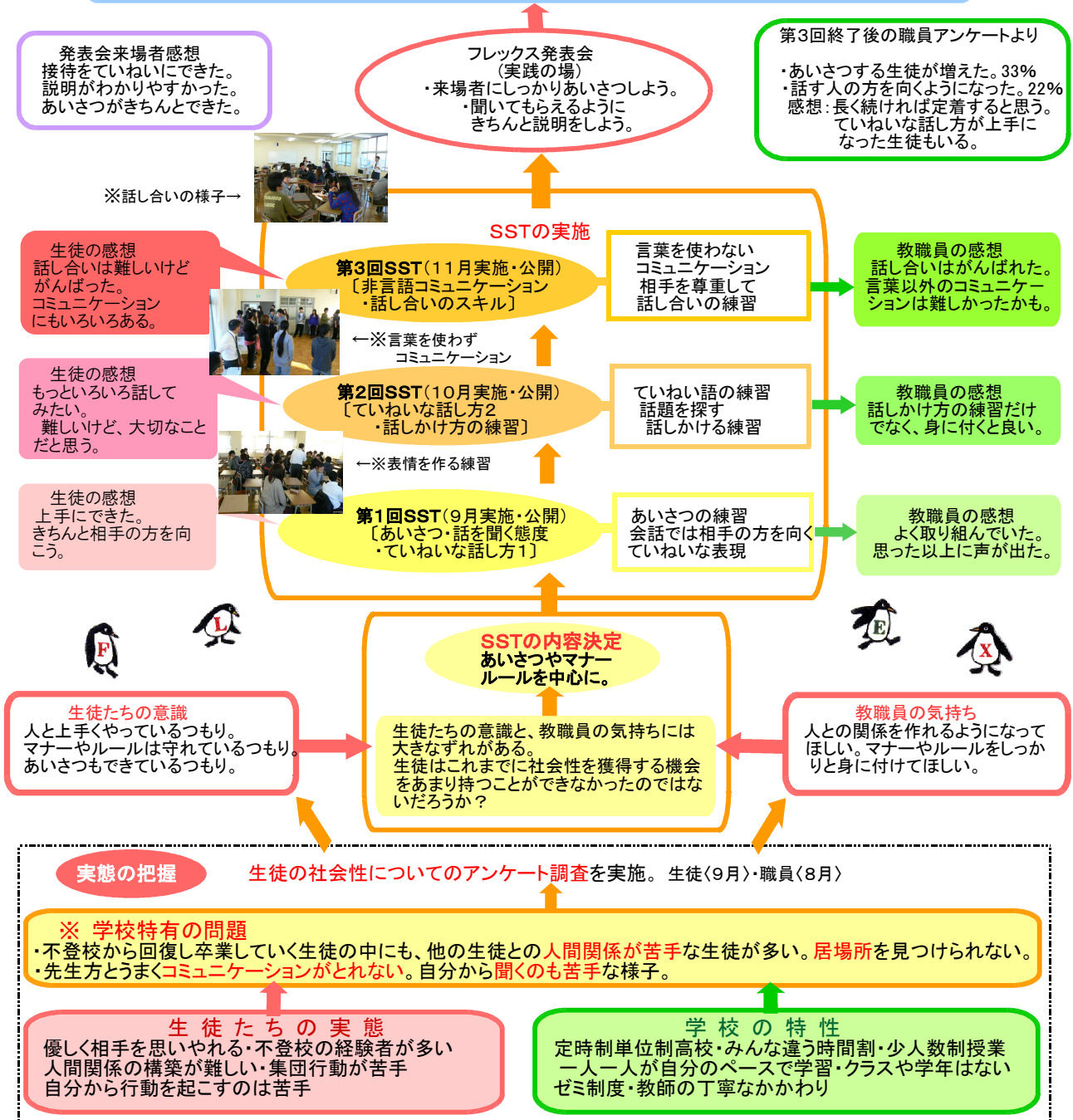
— ソーシャルスキルトレーニングを用いて —

生徒指導・教育相談班 亀井 絹子(高等学校教諭)

研究の概要

本研究は定時制の単位制普通高校の生徒にコミュニケーションスキルを身に付けさせて、コミュニケーションの機会を増やす取組である。基本的なコミュニケーションスキルを身に付けることが学校生活の向上や人間関係の安定につながる考えた。職員や生徒アンケートから内容を決め、来年度卒業を控えた中級年次集会で基本的なソーシャルスキルトレーニング(以下SST)を実施した。また、教職員が生徒の社会性を育てることの重要性を認識する機会と考え、トレーニングを公開した。

コミュニケーションスキルが身に付く・生徒のコミュニケーションの機会が増える
ゼミ活動や学校生活全般での生徒のコミュニケーション活動が増える



研究の成果と課題

SSTを体験した生徒たちは「あいさつ」や「ていねいに話す」「話を聞く態度」が上手になり、職員との関わりも増えた。活動を行った理由や必要性についても理解が進んだ様子である。だが、生徒たちはコミュニケーション活動を行うことの重要性を感じながら、同時に難しさを感じている。今後は、より達成しやすい目標を提示しモチベーションを向上し、参加しやすい活動内容で、引き続きトレーニングを行う必要がある。